

第11回 佐賀空港の自衛隊駐屯地計画に関する調査特別委員会

令和5年7月4日(火)
午前9時30分～午後0時58分
議会第1会議室

【出席委員】嘉村弘和委員長、山口弘展副委員長、山下明子委員、中野茂康委員
千綿正明委員、堤正之委員、山田誠一郎委員、川副龍之介委員、
永渕史孝委員、松永憲明委員、西岡真一委員、中島妙子委員

【欠席委員】なし

【執行部出席者】なし

【案件】

- ・現地視察(駐屯地予定地、駐屯地予定地への資材運搬経路)
- ・委員間協議

(現地視察終了後)

○嘉村委員長

全員おそろいになりましたので、予定の時間よりちょっと早いですけども、これより佐賀空港の自衛隊駐屯地計画に関する調査特別委員会を再開いたします。

先ほど、自衛隊駐屯地予定地の現地視察を行いました。本日視察を行った自衛隊駐屯地予定地について、委員の皆様がお気づきになった点、もちろん3か所、道路のほうも確認をしてみましたけども、これも含めてお気づきになった点があれば、出していただきたいというふうに思います。

○千綿委員

東与賀の住民の方が言われてた説明では、30分に一本って説明があっただけなんですけども、でもそれ何ていうかな、あそこ現場に行ってですね、それより短い間隔で来てたんで、やっぱり説明の仕方がですね、以前ここでも言ったように、ある時点で1時間に何本通るんだってことをちゃんとやっぱり、大体計算すれば分かることだから、正確にやっぱ出しとかんとです。それが実態と違ったら、信頼を裏切ることになるんで、そこはねやっぱりちゃんとしてもらわんとです。住民の方からすると、いや30分に一本で聞いてったばってん、次から次に来るよっていう話になるけん、そこはですねやっぱ信義の問題なんで、ちょっと防衛省に申入れはしなきゃいけないんじゃないかなという気がしました。

○嘉村委員長

これ、路線によって違うと思いますんでね。この路線は、1時間に何台通るんだということをやっぱり明確に伝えていただく必要性はありますよね。御指摘のとおり。

○山下委員

多分今日の西側のところっていうのは巖木と多久から来るもので、2ヶ所の土取場から来るから、それぞれからは30分に1回だったかもしれないけれども、集中してくるので、こうなるということだと思し、最終的に集中するのが川副の状況で、東西から来るのが全部来るということになるので、だからやっぱり、一度前回採石場のところを見たいと言ったんですが、その機会を一つ設けていただければいいなと、思ったのが一つです。

もう一つは、いや今日本当にもう泊まっていても結構ですとおっしゃったぐらいだったんですが、委員会としてですねやっぱりその住民の方たちと気持ちをともしるといっているのであれば、例えば、その一定の時間を、2人組で1時間ずつ区切りながらとかでも、一体何台通るのかっていうところを定点観測するっていうことをやってみたらどうかなという気がします。それで、その感覚とね、防衛省が言ってる説明とのギャップといいますか、そこら辺をしっかりと私たちも肌感覚でつかむ必要があるのではないのかなという気がちょっとしています。

○永渕委員

確認の中で何点か質問をさせていただいたところで、住民の方大変御苦労されてるというところで聞いたんですけども、そもそもそのルート等についてということで聞いたときは、もうはっきりとです。ね後ろの住民の方はルート自体を変えられるのであればそれがいいというようなお話をされてる方がいたのがまず印象的だったのと、そのあとに久保田のところのところで見たお話を聞かせていただいたんですけど、一般的には分かってなきやいけないところであったんですけど、改めて聞いたその舗装の厚みとかが、市道、県道、国道とそれぞれ違うというようなお話とかも聞くにつけですね、やっぱりその、改めてこのルート等のこと自体をですね、また一回戻すような形になる話なのかもしれないんですけど、例えば、やはりときどき皆さんの御意見からも出たように、高速のところから降りてまっすぐですね。一気に大きい道路をつきって行くようなやり方っていうのも、改めて防衛省側に伝えられるのであればやっぱり伝えるべきなんじゃないかなというのがまず思ったところがあります。

もう一つはですねやっぱり、昨日の新聞に載ってた事故の案件自体は相手方のほうに問題があったということだったんですけど、今日たまたま通ってるときも何か事故らしきところを見たようなところもあって、この短い期間だけでもそういうことが起こってるっていう事を考えていく中で、またそういう、もうちょっとお伝えせなっていうところを考えていくと、委員長副委員長ですねこれも議長もいらっしゃるようだけど、皆さんやはりもう1回やっぱり防衛省に行って話を取りに行く、聞きに行く、そういう姿勢を常にしていかないと、事故であったりとかそういう新しい情報がなかなか入ってこなかったり、そういう可能性があるかなという意味では、改めて防衛省にやっぱり行く機会っていうのを増やしていくそういうことが必要かなと思いました。

○山田委員

今日、山田さんが言われたことは、もう前から私のほうに、地域住民の方が言われてることなんですけども、やはり1番心配されてるのは、後から、家とかにそういう影響が出たら補償しますよっていうのは、これ事前にやっとかないとそれが確実に実行されないだろうということが1番心配されること。それとですね、先日の資料で、22時から6時まで、60台運行延べ180台ということで、往復360台通るわけですね、これ1時間当たりに換算したら、夜中ですね、この時間帯に1時間に45台の車が通るとのことなんですよね。1時間に。これだったら、もう寝るなということだと思ふ。寝るなということですかっていうことも言われました。実際あそこで生活してる人じゃないと分からないことだと思います。これをこの期間、揺れる中でっていうのは、まず眠れないと思います。

それとやはり、家屋に対する財産を脅かされるということですね。これは市民に寄り添った、防衛省も、佐賀市も言ってる、市民に寄り添った安心安全な生活を守るっていうことにはもう到底かけ離れてるということで、沿線の人は、駐屯地自体は市長が認めたらもうそれはもうしょうがないと。ただ、それに関する運搬に対する不満っていうのが出てきてるわけですね。だから私はあのルートはもう通るべきではないと。ほかとは地盤が違うっていうことを強く言いたいと思います。

○川副議員

今日の新聞にも載ってあった、7月1日土曜日にですね、西与賀の丸目地区の自治会が、工事にかかる説明を受けております。このときは地元から30名程度と、あと小学校のほうから教務主任の先生来られてですね、2時間ほど話し合いをされたところでもあります。

その中で、まず言われたのがもうほとんど内容についてはですね、東与賀の住民の方と一緒に内容でした。要望としては、西与賀から東与賀通ってきますので、同じ沿線かかりますので、内容としては一緒でした。まず言われたのが、ルートを変えてほしい。地元の方から、こういうルートがある、こういうルートがあるということで、具体的に防衛局のほうに話をされたところでもあります。それと、先ほど千綿さんから言われた台数ですね、台数をやはりきちんとってほしい。時間に何台いくのか。ただ今日の道路を見よった限りは、もう非常に短い間でどんどん進んでいるということでありました。あと車に関することで、過積載は当然やめてほしい。今日これも東与賀で出ておりましたけど、帰り、空の場合はスピードを出します。これは、地元の丸目地区の方も言われておりましたので、ここら辺

のきちんとした管理を徹底してほしいということで言われておりました。

それと、振動による家屋の不具合の発生ですね、これについても丸目地区がモニタリングはないので、このモニタリングを設置してほしいと住民のほうから言いました。先ほど山田委員から言われたとおり、事前調査しないですかって、これはもう強く言われましたけど、防衛局の答弁はですね今までどおりで、何か不具合が出たらこちらのほうに連絡してください。そのあと調査をします。この1点張りでした。あとですね、学校のほうから、通学の時間帯は外しておられますけど、今後夏休みに入るとですね、子どもたちが、行動範囲が広がってきます。そういった中で、やはり学校のほうからは、行動範囲が広がって、ある程度、外に出ていきますので、やはりその安全性の確保もきちんとしてほしいということで言われておりました。あと、道路を通れば当然傷みますので、道路の補修関係もきちんと管理者のほうにやっていただきたいということと、これも東与賀で言われたんですけど、西与賀のほうも道路の下に下水管が通っております。東与賀の方も、ちょっと下水管の音がするということで言われました。西与賀のほうも、やはり大きい管が入っておりますので、大型ダンプが通れば、そういう軋む音とかですね、管の音がするということで、それはもう以前から話されております。

大体西与賀のほうから出たのはそういう意見でしたけど、ルートの見ますと、今日見た久保田、西与賀、東与賀ですね、これは一連のルートですので、今日はいろんな久保田のほうから、中野議員のほうからも意見出ましたとおり、やはり一連のルート、もう一度考えてほしいということで、西与賀のほうは、ルートを変更してほしいということが出まして、昼間の、もし、最終的に西与賀を通るのであれば昼間だけならいいということでした。やはり夜間の走行はもうやめていただきたいということ強く言われております。以上です。

○松永委員

今日の現地の人々の住民の声、それから、久保田の状況を見てきてですね、これはちょっと大変だになっていうふうに率直に思いました。それで、最終的にどうしてもこの工事をやっていくということであればですね、もう高速道路を使うしかないんじゃないかというふうに思うわけですよ。やっぱり、防衛省が地域住民の声にしっかりと応えていかないかということであればですね、もう残された道は高速道路しかないじゃないかというふうに私は今日感じたところでございます。

そういったことを、どういふように防衛省にきちっと我々の声を伝えていくのか、地域住民の声を伝えるのかというところが、今話があったようにですね、我々が、この委員会として一つアクションを起こす必要があるというふうに思ったところです。

○中島委員

皆さんおっしゃったように、本日、現場を見させていただいて、思ったよりダンプが頻繁に通っている印象を受けました。防衛省から出された計画では、7月14日からさらに台数が増えるということで、もうこれでは住民の方が本当に生活出来なくなるという思いになりました。先ほどお話あったみたいに、やはり高速道路からのルートをですねしっかり検討をお願いしたいと思います。

また、先日もお話ししましたが、市議会から、防衛局に対して要請を出した分に対してですね、夜間の運搬を行わないでほしい。夜間というのは、夕方6時から朝8時までなんですけども、これに対するきちんとした回答っていうのはですね、前回の計画では段階的に24時間走行するっていう計画を出されたと思いますので、この件については、やはり、もう1回市議会としてもしっかりと防衛省に対して要請を行っていくべきではないかなと、今日改めて強く思いました。

○中野委員

東与賀の313号のルート、私の地元の久保田町内のルートを見ていただきました。私自身はですね、この二つのルートをやったことがですね——皆様からいろいろな意見が出ております。先ほど、永淵委員、松永委員、中島委員も言われました。高速道路を使って南下するルートの案もありますので、ぜひ、そのルートでの運搬をお願いしたいと思います。

○堤委員

私も現場見ましてですね、特に印象に残ったのは、久保田の思齊小中学校の交差点ですね。今、道路拡幅工事ということで、仮設で工事されてるわけですが、もう片側のほうあたりは、かなり沈下してクラックが入ってしまっていて、数日雨の降った後にはですね、あつという間にはげてしまうような状態になってますんで、あれで本当にトラックで行ってバウンドでもした日にはですね、ああいうガードが周辺あってもですね、なかなかハンドルを取られて、非常に怖い状況ですから、ここをやっぱり日中といえども通すってのはなかなか厳しいんじゃないかなということを思います。

それから、その代替ということで市道のほうを拝見しましたけども、見た目にはきれいにしてるんですが、よくよくこう見てみますと、今日カントリーエレベーターの所に停まりましたけども、カントリー側の駐車場のところもクラックが入ってて、出たところの市道のほうにも入ってました。厚さが5センチとなるとですね、駐車場敷地の厚さなんですね、アスファルトの厚さですね。3センチから5センチともう本当薄いんですよ。そこに30トン40トンと載ってですね、タイヤをちょっとひねっただけで、ぼろっと剥げるような感じになっちゃうんですね。

ですから、ここを走らせたなら本当に全線、大変なことになるやろうなあという気はいたしました。ですから、本当にいろんなことを考えていくと、少なくとも夜間だけは高速を使うとかいうことはやっぱり一定の考えをしないといかんのかなというふうなことを思いました。できれば全線でも高速の方がいいか分かりませんが、少なくともやっぱり夜間についてはそのように考えてます。

○西岡委員

高速道路を使う案に関しましては、この前、防衛省はですね、車が集中して渋滞等の原因にもなりかねないという回答をしてたようですけども、これは今後の協議に関わっていくかなと思います。それで今日市道を見せていただいて、確かに堤委員の言われるように、道路規格はどうしてもやっぱり県道並みではないということでしょうから、ただ、どの市道にしてもですね、未来永劫を想定していた通行量が変わることはないことはないはずであります。ましてやこれは国策に協力して通したいということですので、ここに何か突破口がないのか。県、あるいは防衛省、あるいは国、どっかから何かちょっと出てこないのかということをやっぱり私なりに探ってみたいと思います。

○山口副委員長

大体、皆さんから出尽くしたと思います。単純に私が思うのは、自宅のそばに土取り場がありますんで、その計量の現場もちょっと見させていただきました。そしたらですね、空のダンプ1台の重量が約15トンなんです。そこにですね、10トンダンプというから、普通は10トン乗せてよかろうばってんが、この前防衛省から説明があったように、半分以下しか積んでないんですね。こんな言い方したらいいのかわかりませんが、台数減らそうと思ったらもう少し積んでいいんじゃないかなって。逆にですよ。そっちのほうで、台数減らして——別に何ていうかな、道交法に違反するような話でも何でもないですから。そういったのもちょっと全く別の視点ではあったのが一つと、それと、今ですね、子どもたちの安全対策でいろんなところでガードマンが当初、近辺だったのが15か所、今交通誘導員がいらっしゃいますが、土曜日曜もいらっしゃるんですね。それと先ほど川副委員からもお話があったように、夏休み、子どもたちが休みのときまでも、川崎議員のお話聞くと、もちろん必要だし、行動範囲が広がるから、もっとたくさんつけなきゃいけないのかなと。その辺の問題も、ちょっとやっぱり整理はせんといかんのかなっていう気がしております。

私も、個人的な見解で言えば、もう高速道路をそのまま使ったほうが、1番ベター、1番ベストではないのかなというふうに思っております。それと、こういった問題に関しては先ほど中島議員からも出ましたけれども、前回要請書で出した1から6項目の中で、項目の番号から言えば、2番と4番に関しては、100%納得いくような回答が得られておりません。ですから、そういったものも含めてですね今後、この特別委員会としてどういうアクションを起こしていくのか。前回同様先ほど永淵委員からも出たように、特別委員会だけの話ではなくて、市議会としてコンセンサスとして、前回のよう議長副議長にお願いをするというような方向に持っていくのか。ここはこの場で、ぜひ委員長を初めと

してですね、議論ができればなというふうに思っております。

○嘉村委員長

今、皆さんの感じたことをお伺いしましたが共通してますね。夜間走行はやっばやめてほしいと。ルートに関しては、特に西側から入ってくるルートについては軟弱地盤も入ってるし、あのルートは避けてできるだけ高速のほうという話もありましたし、もし通るとするならば、家屋調査をやっていたきたいと、最悪の場合もあるからというような御意見ありました。そういう中で副委員長のほうから、前回6項目要請した内容がありますし、その中で2番4番については、まだ、しっかりとした答えも戻ってきてないということでございましたんで、今後再要請を改めてこの委員会でもまとめ上げてですよ、やるかということもあるんですけども、それについてはいかがでしょうか。

○山田委員

今、副委員長も委員長もおっしゃったとおりですね、前回は最後中島委員が、今後のこととして御発言をされたと思います。そのときに委員長も、できるだけ我々の立場に立っていただけたらとの主張を今後も言っていきたいという発言があったと思います。私も副委員長言われるとおり2番と4番に関しては、私たちが納得のいく答えをもらってないのでですね、これは私たちが納得するまで、九州防衛局に対して要望していくことはもう続けていっていただきたいと思います。

○千綿委員

今副委員長が言われたでしょ。10トン車で、結局今4.3立米かな、あれでどのくらいまで積めるものなんですか。逆にですよ、もっと積めるのであれば、往復の回数は当然減ると思うので、そこら辺は逆に僕は聞きたい。

もう一つね、以前から高度道路を通る方が良いと言っているんですけど、やっぱり袋の交差点で右折するとき、そこにずらっと並んだら南部バイパスはたぶん混むと思うんですよ。当然ながら、その対応策とかも含めてか、要するに、前回の佐賀空港をつくったときもやっば高速で運んだらしいんですよ。実際運んだらしいけども、あれの1.5倍になるわけですよ。その数を減らすなら積載量を増やして、道交法ぎりぎりですよ。違反しろとは言えませんので、どのくらいまで積めるのかちょっと興味があったんですけど、例えば、4.5立米を2立米でも増やせば、要するに4分の1ぐらい減らせるっていう可能性があるわけですよ。聞きたいところです。

○嘉村委員長

この間の説明では、約半分の4.2立米を積載すると。そしておおむねトラックの重量等を含めて、10トンぐらいっていうふうな、説明がなかったかなと思うんですけど。だから10トンだというふうな説明、だから4.2トンを積載するんだという話だったと思います。

○山口副委員長

もし私が見て間違っていたらもう、初めに謝っておきます。今回の泥を搬出する際はですね、まず空のダンプが行って、そこで1回計量をします。それでそのあと土砂を載せて、それからまた計量をして、実際どれくらい量を積んだかっていうところですね、搬出するような段取りを今やってるみたいなんですけど、もし少しでも土砂の量が多くて、要は全体的な重さが多かったりすると、そこにですね、またバックホーが来て、1回積んだものをあえてまたおろしてと、そこまで丁寧にやっています。これは一つはですね、やはり、裏のバケットから少しでもはみ出したりすると、ちょっとブレーキ踏んだりしたときに落ちたりだとかっていうところを、えらく気にされてるのかなあっていうのがあるのと、全体のトラックまで含めた形の全体の重量を何か想定されているのかその辺はちょっと定かではありませんが、極端に言うともう半分以下、普通の半分以下しか積んでいられないんですよ。それくらいもぎりぎりです。普通は普通の工事でああいう積み方ってちょっと私も経験上は考えられません。だからその辺りをもう少しちょっと、こちらのほうからもう1回問合せするなりですね、してもいいんじゃないかなと思うんですけども。

○嘉村委員長

それは問合せしていいと思いますよ。無理がない積載量でもう少し増やすことができれば、その分

ね。3分の1になったりね、半分やったりするから、それを問合せする必要があると思います。

いろいろ御意見出ましたけども、今後再要請するかということについては、するとするならば、ちょっとまたまとめ上げないかんですから、今日は一旦置いて、日を改めてですよ、委員会を開いて取りまとめていくという形になりますが、それ、よろしいですかね。その方向で、今後、進めさせていただきたいと思います。この件についてはこれでよろしいですか。4番目にその他でありますけども、何かございましたら。はいどうぞ。

○山田委員

私が最初の発言のときに言えばよかったんですけども、ほかの道路と違うってということなんですよ。軟弱地盤で、道路の形状が違うということなんですね。それでやはり、家屋調査とかをやっぴり言われてるということだけ、皆さん承知しておいていただきたいと。

○嘉村委員長

その点はわかりました。もう一つ、男性の山田さんが言われていたけど、家が傾いてると。ということは、当然軟弱地盤だから、傾いたんだろうというふうに想像出来ますよね。それのところは確認。家屋調査についての説明はですよ、防衛局としては、例えば杭打ち工事をする付近とか、そういうところについてはやりますということやったけど、沿線全ての家屋に対してはやりませんという話だったと思うんですけど。ということはやらないってことですよ。これをどう求めていくかというのは、だからルート変えてくださいって話をされてましたですね。いずれにしても我々の意見をしっかりと伝えていかないかと思えます。

何かこの間の話からすれば、いわゆる、道路関係だから佐賀県警、そして佐賀県、佐賀市、防衛局、4者で十分話し合いながら、まとめていきたいということをおっしゃったもんですからね。防衛局にも、市のほうにもしっかりと我々の議論した内容、こうでやりたいと。考え方が一つにまとまったもんですから、そういうことはしっかりと伝えていきたいというふうに思っています。

○山下委員

さっき要請項目のときに言い忘れちゃったんですが、駐屯地工事現場の現地視察のときに、工事現場で振動騒音の現在の表示をするパネルの設置をっていうことを言ったと思うんですが、そこもぜひですね、外にちゃんと分かるようにっていうのは、ただいまの騒音振動というのがよく工事現場に出てる場所がありますけども、そういうものをねやっぴり設置してもらいたっていうふうには思うんですが、そこら辺が要望の中に入るのであればいいなと思ってます。それと、さっき山口副委員長が言われてた、土取り場でのトラックに積んでる時の状況っていう話もあったので、やっぴり、どうか、きちっと見ておく必要があるのではないかと思います。

○嘉村委員長

現地視察の話なんですけども、土取り場も見ておく必要があるんじゃないかということなんですけど、今後の現地視察、客観的にこの場所は危険だよという箇所がね入ってくれば、そういうところも含めて確認をしていくのかですね。

○千綿委員

特別委員会の委員長名で資料請求してほしいのが、土取り場近辺のルートが今三つあるじゃないですか。それ以外に土取り場からそのルートに乗るその沿線の人たちから話を聞いてないという声がちょっと上がってるもんですから、土取り場からそのルートに行く道というのをですね、詳細に分かったほうがいいという議員が——もちろん党派の中ですけどもいたんで、例えば実際の土取り場からそのルートに行く道をちゃんと決めてもらわないと、やっぴり地元の説明会、子どもたちもそこに住んでいるからですね。だから、そこまでの詳細なルートが欲しいと。絶対その道を通っていくってことを決めてほしいと。

○嘉村委員長

今決まってるわけね。

○千綿委員

いや、決まってるかどうかわかんない。

○嘉村委員長

土取り場からルートには出るまでの経路、これについては、確認を防衛局のほうにさせていただきます。

○千綿委員

この前私も言ったように、結局ですね、1時間に何台とおろかが分からず想像もできないじゃないですか。30分に一本って言ったって、あれは絶対30分に1本じゃないですよね見たところ。だからそこを含めて、積み込むまでの作業時間とか総台数とかで計算したら、大体の台数出ると思うんで、そこは地点地点でやっぱり大体の資料をもらわないとですね、なかなか難しいと思いますよ。台数が出て右折レーンがどうなるかとか、右折の矢印信号を設置してもらおうとかそういう要望も出てくるでしょうから。

○嘉村委員長

確かに時間帯による路線ごとのトラックの台数とか、そういうのもちょっと示していただくようにですね、要望を上げておきたいと思います。

○山下委員

関連なんですけど、その土取り場からのルートと、それからもし高速道路をルートにっていうことを委員会として要望しようということになった場合ですよ、今度集中するところがどうなるかっていう逆の影響もあるわけですよ。だから、町なかとしてはもう大変なことになるということで、そこら辺も想定しながら、言っていく必要があると思うので、見るときはそこら辺もちょっと考えながらっていうのはぜひ、念頭に置いていただきたいと思います。

○山田委員

ちょっとここで皆さんに私の防衛局に対する不信感についてちょっと一つ言わせていただきたいと思います。前回、九州防衛局が来たときに騒音と振動についてのモニタリング調査箇所について問うたと思いますけども、そのときに、東与賀の1番振動と騒音を計測しなきゃいけない場所に、集音マイクしかなかった。ていうことを言ったら、いやそういうことありませんと。ちょっと私も自信がなかったんで、2度ほど現地を確認して写真も撮ってきました。そういう、空港道路に行く幹線道路に設置している機器とは全然違う、いわゆる集音マイクしか設置してなかった。だから、私にしてみれば、うそを言われたということでこれはもう、九州防衛局に対して非常に不信感がある。ということだけ委員長にお伝えしておきます。

○松永憲明委員

そのこともですよ、実際調査してそうではなかったという指摘もしておきます。現地で住民の説明のあったときもですよ、私申し上げたんですけども、途中に1か所あったんですよ、集音マイクだけしかないというのがあったんですよ。だから、測定するならば、きちっとやれよと、やっぱりそこは言わないかんとおもいますね。きちんとさせなくちゃいけないと思います。

○永渕委員

仮に、大きい道路を運搬して運ぶということが進んだとしたときは、今言ってる家屋調査をするしないってところも全然違う話になってくるわけですよ。ちょっと確認したかったんで、要は、大きい道路を通るってことは、もうその通りのところはそういう家屋調査の話はなくなるというか、ちょっとそこは議論しなくてよくなるという感じなんですよ。

○嘉村委員長

家屋調査に関して、防衛局言ってるのは、杭打ちとか、工事現場の横の施設や家屋については、事前に家屋調査をやりますと。それ以外は対象にありませんということ言ってるわけですね。

○松永憲明委員

さっき土取場の視察の話があったんですけども、佐賀市の場合は、大和の柳川商店のところなんで

すよね。温泉病院の東側の山のところにある土をとってるわけですよ。そのほかは、東脊振とそれから相知、厳木と。見に行くとするば、よそのところまで見に行くと、ああだこうだと我々が言うのができるのかどうかという問題があると思うんですね。行くとするば柳川商店のそこだけだろうと思います。現地に行ってみても、離れたところからしか見れないんですよ。そして行ったら邪魔になるんですよ。そこはよく分かっておかないんですよ、何でもかんでも視察って言われてもね、私も頻繁に見て通ってきますから分かるんですけどね。事務所のところに行くことについてもですね、迷惑がられたことがあるんですよ。ですから、あそこは、松梅中学校に通う中学生や、松梅小学校に通う小学生がいますので、歩道通っているんですよ。自転車で行く子どももおります。だから恐らくあそこはですね、交通誘導員の方がいらっしゃるだろうと思うんですけどですね。ちょっと私もそこが確認出来てませんが、そういったところをもう1回確認しながらですね、委員長副委員長にお伝えしたいと思います。私は、柳川商店に行っても一緒だと思うんですよ。

○嘉村委員長

現場を確認するとしても、佐賀市の行政の範囲内というふうになります。土取り場の件については松永委員からご意見いただきまして、確かにですね、現場へ行っても、トラックが、もう引っこり無しに出たり入ったりしてるから、かえって邪魔にならないか。そこで何を見るかというのもありますけども。それよりも今言われたようにですね、搬入経路の中で、そこから既定のルートに出るまでの、危険性がないかどうかちゅうのは、確認する必要性はあるかもしれません。

○松永委員

国道263号線からもうすぐなんですよ。柳川商店の土取り場はすぐなんですよ。ですからそこは必要ないんですよ。

○嘉村委員長

いずれにしてですよ、先ほどの話に戻りますと、防衛省のほうに取りまとめて要請した6項目に関する内容で、特に、今4番についての再要請を行いたいということでありましたんで、日を改めて委員会を開いてですね、求めていきたいと思います。現場に関しては、もうこれはぜひ見ておかなきゃという案件とかあればですね、そのときにまた再協議をして、対応を考えていきたいと思います。

これ以上特になければ、以上で本日の特別委員会を終了させていただきます。大変お疲れさまでございました。ありがとうございました。